

第1章 感情コントロール支援の開発

1 開発の背景と目的

障害者職業総合センター職業センター（以下「職業センター」という。）においては、休職中の高次脳機能障害者を対象とした「職場復帰支援プログラム」と就職を目指す高次脳機能障害者を対象とした「就職支援プログラム」を実施しています。

職業センターでは、両プログラムの実施を通じて、高次脳機能障害者の障害の自己認識の促進、補完手段の習得及び事業主支援を目的とした技法の開発などを行い、地域障害者職業センター（以下「地域センター」という。）等で実施する高次脳機能障害者に対する就労支援に資するため、開発成果の伝達・普及を行っています。

実際に高次脳機能障害者への就労支援において、今回の開発テーマとした怒りや不安、抑うつといった「感情コントロール」に課題がある支援対象者は少なくありません。障害者職業総合センター研究部門¹⁾によると、平成24年10月に実施した地域センターへの調査において、作業遂行上の問題点として、作業手順の定着や覚えられないといった実務に関連する項目を除くと、「感情コントロール」の問題が比較的多いという結果が出ています。また、技法開発のテーマ設定にあたり、地域センターにヒアリング調査を行ったところ、多くの地域センターから「感情コントロール」をテーマとする支援技法の開発について要望があがっており、開発ニーズが高いものとなっています。そこで、職業センターでは平成28年度から30年度にかけて、「感情コントロールに課題を抱える高次脳機能障害者への支援技法」の開発に取り組みました。

2 開発の方法

職業センターでは、平成28年度から29年度にかけて、高次脳機能障害者の感情コントロールに関する文献調査を行うとともに、障害者職業総合センター研究部門が実施する専門家ヒアリングに同行し、主として国内の医療機関における社会的行動障害のある高次脳機能障害者への就労支援について情報収集を行いました。また、平成30年2月には、オーストラリアの医療機関の Epworth Health Care（メルボルン）及び脳損傷者支援団体である Synapse（ブリスベン）を訪問し、オーストラリアにおける感情コントロールに課題を抱える高次脳機能障害者の支援について情報収集を行いました。国内外の取組の詳細については、第2章において解説します。

国内外の支援の取組を踏まえて、職業センターでは、高次脳機能障害者の感情コントロールに資するグループワークの開発に取り組みました。グループワークの内容や開発の経過については、第3章以降において解説します。

3 用語の定義

【高次脳機能障害】

「高次脳機能障害」は、病気や怪我で脳に損傷を受けたことにより生じる認知機能の障害に関する言葉ですが、用いられる文脈により主として「注意障害」、「記憶障害」、「遂行

機能障害」、「社会的行動障害」を指す場合と、「失語症」、「失行症」、「失認症」などを含め広く捉える場合があります。職業センターで実施する両プログラムでは、「高次脳機能障害」を後者の意味として捉えており、本報告書においても同様の意味で使用します。

【感情に関する用語】

平山ら（2013）²⁾に従い、感情に関する用語を次のとおり定義します。

用語	定義
情動 (emotion)	外的刺激に対する生体の反応。主体的体験と身体的反応を含んでいる。
気分 (mood)	比較的長く持続する基調としての情動の状態。気分の異常な高揚を躁状態、異常な鎮静を抑うつ状態という。
感情 (affect、feeling)	情動の主観的な体験。快・不快という原初的感情から、発達とともに、喜び、幸福、恐れ、怒り、驚き、嫌悪、悲しみなどの基本感情に分化する。

【感情コントロールの支援】

本報告書における「感情コントロールの支援」とは、「怒りや不安、抑うつといった否定的な感情が職業生活に及ぼす影響を軽減するために対処手段を身につけること」と定義します。感情コントロールの定義については、国立障害者リハビリテーションセンターが作成した「高次脳機能障害者支援の手引き（改訂第2版）」³⁾において、情動コントロール（感情コントロールと同義）の障害を「最初のいらいらした気分が徐々に過剰な感情的反応や攻撃的行動にエスカレートし、一度始まると患者はこの行動をコントロールすることができない。自己の障害を認めず訓練を頑固に拒否する。突然興奮して大声で怒鳴り散らす。看護者に対して暴力や性的行為などの反社会的行為が見られる。」と主として「怒り」の表出を中心に定義しています。ただし、「怒り」の背景について、職業センターの実践報告書⁴⁾では、「悲しみ」、「疲労感」、「不安感」等の感情があることを述べており、感情コントロール支援の対象となる感情の対象範囲を広げて考えることとしました。

【引用文献】

- 1) 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター：調査研究報告書 No. 121「高次脳機能障害者の働き方の現状と今後の支援のあり方に関する研究」、2014
- 2) 平山恵造 田川皓一編：「脳血管障害と神経心理学（第2版）」、医学書院、2013、P67
- 3) 国立障害者リハビリテーションセンター：「高次脳機能障害者支援の手引き（改訂第2版）」、2008
- 4) 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター：実践報告書 No. 29「気分障害等の精神疾患で休職中の方の怒りの対処に関する支援～アンダーコントロール支援の技法開発～」、2016